

江戸から見習おう！

～江戸のあたりまえ～



○変わらない口紅

口紅は女性をより女らしくみせることができ、江戸でも大人気でした。現代の雑誌のように、江戸の美容本には口紅を塗っている様子が掲載されています。今も昔も女性はメイクに夢中なんですね！

日本文化が成熟した江戸、そこからさらに発展した現代。その共通点とは？

図書館だより

九里学園高等学校員会
図書委員会
印刷(株)川島印刷
TEL 21-5511(代)

○大好き!! ファーストフード



江戸時代の立ち売りで売られている天ぷらは、現代のファーストフードです。

江戸の天ぷらは串で刺してあり、現代のハンバーガーのように気軽に食べることができます。安い、早い、美味しい。共通点がたくさんあります。今も昔もファーストフードは人気だったのです。



○江戸の人づきあい

江戸時代は、人と交流する場がたくさんありました。「長屋」「湯屋」「相撲の試合」「歌舞伎などの芝居」など、あちこちに社交場があり、人々は社交場で様々な情報のやり取りをしていました。

【長屋】

井戸の周りに集まって洗濯しながら世間話をし、時にお互い困っていたら手助けしたりしていました。

【湯屋】

今でいう「大きなサウナ室」です。二階では、囲碁などのゲームをし、おしゃべりをしながら楽しく食事をしていました。

【その他の社交場】

相撲の試合や歌舞伎のお芝居などを見て、交流していました。

江戸にはあちらこちらに社交場があり、情報のやり取りがされていました。その中でお互いに生きていくために協力し合っていたのです。

現代でも、交流の場所があり、町でもお互いに助け合いながら暮らしています。しかし一部現代では、

これによつて、子供の虐待や孤独死が起ることもあります。江戸では有り得ません。例えば、江戸では子供が迷子になつた時、まず親を探す手助けをします。もし親が見つかならなかつた場合、町内でその子が一人前に自立できるまで手助けをします。江戸の人達は、現代よりも他人に対して関心があり、お互いに助け合いをしながら生きていこうとしていました。江戸の自治能力は高く、些細な事件も自ら解決してしまいます。しかし現代には多くの行政サービスがあり、他人に任せようと考へてしまっています。江戸と現代の共通点は多いですが、江戸では「一人ひとりが自ら生きていく」という意識が現代でより高かつたのです。現代でも、まず自分達ができることが何か考え、率先して動くことが大切なことです。少し考えてみてはいかがでしょうか？

近所に誰が住んでいるのか分からぬ

誰かが困ったのを見つけていて、親切で見てくる

隣に声が聞こえない
隣や怒鳴り声が聞こえない

図書館だより

2015. 2. 28

(2)

『塩の街』

有川浩 著(角川書店)

〈大切な人と私〉

3年6組 嵐 結愛さん

恋

愛

生徒

教師

『猫男(『Love Stories』収録)』

角田光代 著(水曜社)

〈青春時代だけではわからない〉

佐藤 涼子先生

『恋愛においてもつともつらいことは、拒否ではなくて、意志のない受容である。そして、自分が彼にとつて何ものであるのかをけつして規定してもらえないことだ。』誰でもそうだと思うが、私も十代の頃は、人にどう思われるかがとても気になった。好きな人ならなおさら。

誰かに自分の存在を良い方に肯定してもらいたくて、でもその方法が具体的にはわからない状態。若い頃はそんなもやもやした気持ちをどんな言葉で定義付けたらいいかわからなかつたけれど、働き出してからこの本を読んだら、すとんと心の中に落ちてきて納得できたこともある。

みんなにも、今読んだ本をぜひ大人になつてから読み返してみてほしい。

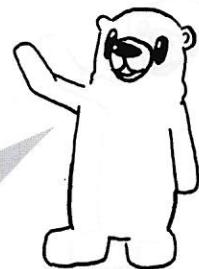
突然あなたは大切な人を失い、そうになります。最後に大切な人と何をしますか。

塩が世界を埋め尽くす塩害の時代。塩害に遭つた人間は全身が塩になり、塩の彫像と化してしまいます。

彼女を塩害で亡くしてしまった『遼二』。大切な人のために塩害と戦う『秋葉』。二人の男は、互いに命をかけて行動を起こします。また、自分のために戦いに行く男を見送る『真奈』。果たしてどんな結末が待つてているのでしょうか。皆さん、考えてみて下さい。あなたは遼一のよう、大切なとの間に残された時間があとわずかだつたら何をしますか。

秋葉のように、大切な誰かのために自分の命を懸けることができますか。一方で、自分のために危険に向かっていく人をどんな気持ちで見送りますか。

今回の「青春特集」では「友情」「部活」「恋愛」の3つのテーマで先生・生徒におすすめの本を紹介していました！



本喰い虫の明

高校で気づいた
『本の魅力』

二年三組 原田 莉奈



私は本が好きで暇なときや休みの日はたいてい本を読んでいます。本をよく読むようになったのは高校からです。中学の頃は全くといっていいほど本に興味や関心は示さなかつたのですが、あるときは環境に私は本を自然とたくさん読むようになっていきました。そのあるときというものは、皆さんも知つての通り高校です。最初は、部活のない日がとても暇だなと思い、「それじゃあ本でも読んでみようか」と思い、まず薄くて表紙で面白い本があるのに中学生頃読まなかつたんだろう。」と後悔していました。しかしこれからは今まで読まなかつた分も含めて、沢山読んでいました。

本を借りていたのですが、やがて自分で気づかぬうちにその本を書いている人の作品が好きになり分厚い本でも全く抵抗がなく読んで表紙で面白いか面白くないかを決めるのではなく、まず読んでからそ



図書館だより

(3)

2015.2.28

『レヴォリューションNO.3』

金城一紀 著(講談社)

〈世界を変える男子高校生たち〉

3年4組 近野 愛さん

あなたにとつて友情とは何ですか？人をあまり信じられない人、思つたように仲良くなれない人、もう人間関係に満足した人、あまり意識していない人、様々だと思います。今は友情の一つの形として一冊の本を紹介します。「君たち、世界を変えてみたくないか？」生物教師に言われ、落ちこぼれ男子校の生徒たちは目を覚まし、自分たちなりに世界を変ることにチャレンジします。その方法とは女子高の学園祭の入場チケットを手に入れ、女子と仲良くなり、彼女を作ることです。一年と昨年の失敗、そして新たな計画を立てた最後の襲撃と、主人公らのレボリューションが描かれています。やる事はバカなのに「こんな友情もあつていいかな」そう思えるお話を。



生徒



教師

『走れメロス』

太宰治 著(新潮文庫)

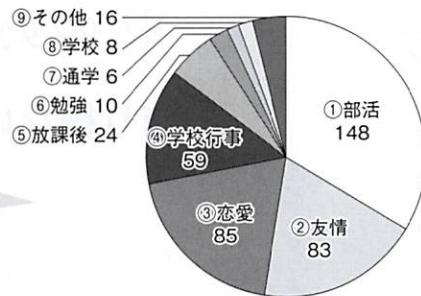
〈互いを互いに信じられるか?〉

吉田貴美子 先生

原稿依頼を受けて、大変困りました。本来、実用書や競技者に対してのコーチング的なものばかり好んで読んでいたために、正直『友情』の本を紹介することは私は難しいのです。強いて言えば「走れメロス」などは代表的な作品ですね。

「互いに互いを信じられるか？」と天秤にかけられた時、どちらを選ぶか迫られます。そのことは、人生の選択とも重なり、自分の「真理」が問われるときです。「友を裏切る行為」も「信頼を守り抜く行為」も、長い人生の中で一度は誰もが経験することに違いありません。その中で「友情」とは、互いを受け入れて許しあえる特別な関係のように感じます。友情とは自由な心のままに固く結ばれていく「愛」だと私は思うのです。

Q みんなが「青春だなあ」と思うキーワードを1つ選んで下さい。



『バッテリー』

あさのあっこ 著(角川文庫)

〈登場人物の成長〉

3年6組 高橋菜々子さん

夏の部活といつたら野球！甲子園！とイメージする人も多いと思います。今年の甲子園も常連校が次々負けてしまったりとたくさん のドラマがありました。軟式野球では五十回にもおよぶ熱戦がくりひろげられました。この本は単なるスポーツ物ではなくその中に家族の思いだつたり、中学校入学前とは思えない大人な考えがあつたりしてスポーツのこと以外にも関心のおける作品です。自信過剰な巧と、優しくて野球のことになると熱くな る豪。このバッテリーがさまざまな事情をかかえ、それをのりこえ少しずつ成長していく姿が読みごたえがあります。またこの本は児童文学なのですが、たくさんの人々に読まれている作品もあります。部活動をやつてい る人、野球好きな人、またその他の人にもぜ ひ読んでみてほしい作品です。



生徒



教師

『スローカープを、もう一球』

山際淳司 著(角川文庫)

〈何度も読み返した一冊〉

高橋左和明 先生

ジャンルは偏らず様々な分野の本を読む私ですが、「青春」「部活」をテーマとした場合、やはり「野球」がキーワードとなります。高校球児であり野球部顧問の肩書きを持つ了私ましたが、その中でもスポーツノンフィクション作家で有名な山際淳司さん(享年四十六)の「スローカープを、もう一球」は珠玉の短編集(他七編)として何度も読み返しています。マイペースな練習で「スローカープ」を武器とするエースが、強豪校のバッターを次々と打ち取り勝ち進んでいくというストーリーです。その駆け引きや勝ち方に感動と爽快感が沸き起こります。また、メンタルの重要性についても考えさせられる一冊です。是非読んでみてください。

読書の楽しみ

スマートフォンやタブレット等の情報端末機器が発達した現代では電子書籍が主流なのだろうが、どうも私はそれに馴染むことが出来ず、「本（読書）」と言えば、やはり本屋さんに足を運び紙媒体の書籍を求めに行く。そこに行くと、興味のあるものから無いものまであらゆる最新情報を題材にした本があたり一面に並び、全く無縁であったタイトルの本を手にしてはページをめくると今まででは知らなかつた情報を得ることが出来る。その事が、自分の未知の領域に足を踏み込み、知識や見聞を深く掘り下げていくきっかけとなつたこともあつた。さて、話は変わるが、中学

手元の画面で一本の指先の操作だけでも出来るこの時世かもしれないが、運命の書籍との出会いを介して人生を大きく変わることも少ないのである。実際に本を手にする場所に足を運び、多くの書物

就寝前に布団にもぐり本を手にしたはいいが、就寝時間なので一旦読み止めるも、その先の続きを気になつて寝付けず再度読み直したものがあつた。

生きの頃ある筆者の単行本のシリーズにはまつことがあるた。ストーリーが明快で、しかも当時の自分と同じ世代の人物を主人公にした小説などで読み進めるにつれて次第に物語に引きこまれていった。

実際に本を手にする場所へ行こう



片平 淳先生
(数 学)



私の好きな(主)人公

有り得ないを形にできる 小説の魅力



『心理コンサルタント 才希シリーズ』

似鳥航一 著

工藤才希

2年1組 茂木 意

んな作者から生み出された主人公が才希である。才希はタイトル通り、心理コンサルタントという仕事をする高校生だ。高校生すでに心理学という面で圧倒的に秀でていて、さらに容姿は美しく、冷たくてまた大人びている。有り得ないほど完璧。しかし、そんな要素がこのシリーズの肝になら

編集後記

今回の図書館だよりは、
2・3ページのレイアウトが
今までと変わり、生徒のみな
さんに書いてもらったアンケ
ートや先生と生徒両方から本
を紹介してもらいました。是非
読んで下さい。

(青木 鈴果)

つっているのだ。彼の仕事、心理コンサルタントは、心理力、ウンセラーとは少し違う。カウンセラーは、直接病の人や悩みを持った人と対面するが、コンサルタントは第三者を交えて、アドバイスという形で支援する仕事である。そのため話のスタートはいつも第三者からの依頼から展開されるのだ。後は簡単、才希が助手である梓を連れて怪事件に挑んでいくのだ。ここで一つ、このシリーズ、主人公は完璧だが、主人公が圧倒的に無双するだけではない。様々なキャラの心情、伏線をとても大切にしているという別のある。今回の紹介で、才希について色々と説明したが、実はまだ記していない秘密も多くある。似鳥航一著「心理コンサルタント才希シリーズ」ぜひ一度読んでみて欲しい。